

観音寺中学校 道徳通信 6月号

5月の体育大会では、それぞれが一生懸命に競技に取り組んだり、生き生きとした笑顔で「観中ソーラン」を踊ったりしていました。また、テントの中から自分のクラスや兄弟クラスの競技者に対して、大きな声で応援をしている姿も多く見られました。一生懸命頑張る人を一生懸命に応援するって本当に素敵なことですね。体育大会を終えて、また1年生は宿泊学習を通して、なお一層クラスの絆が深まってきたところではないでしょうか。今月は、2年生の授業を紹介します。



2年生 「松葉づえ」

松葉づえをついている転校生に、最初の頃は親切にしていたクラスメイトたちですが、転校生が自分たちより将棋も勉強もできることが分かってくると、しだいに態度を変えてしまいます。主人公が無意識のうちにもっていた、転校生に対する表面的な同情、優越感や自己満足で転校生と関わっていたことに気づいていきます。本当の「友情」とは何かについて考えました。

○授業を通しての感想(生徒記述より)

友情は本当に相手のことを助けることや、上下の関係をつくらないことだと思う。友達のことを下に見ていると自然に助けてあげる、という考えになってくると思うので、下に見たり上に見たりせずに接していきたいと思う。

お互いに考えていることは違うけれど、何か辛いことがあったり、困っている時に協力できるのが友達であり、友情であると分かった。人を最初から上や下に見てしまうと、嫉妬して分かり合えなくなってしまう。僕には今良きライバルがいて、その人は本当の友達だ。だから、その友達が困っていたら手助けをしたい。

本当に困っている時に助けるのが本当の友達なんだと思った。私も周りに流されて、困っている友達を助けられなかったことがあったので、しっかり助けられる人になりたい。

自分の都合で相手を助けて、自分の都合で相手を見放すのは本当の友情とは言えないと思う。本当の友達はお互い無条件で助け合える、注意できることだと思う。

他の人と関わる時に、自分が上だと思わないようにしようと思った。対等な立場でいい友達関係を築いて行ければなと思った。～してあげよう、などのさりげなく使ってしまうような言葉も、意識して言わないようにできたらいいなと思った。

助けようとした時に「～してあげる」と言ってしまうなどと改めて気づいた。相手が笑顔でも実はいやな気持ちだったのかな？と思った。これからは、お互いに対等な立場で、けんかしても仲直りして仲良くしていきたい。それに、伊藤君のように、本当に困った時に助けられるような『心が強い人』になりたいと思った。

道徳通信 5月号の返信より

「三百六十五×十四回分の「ありがとう」

- ・ 健康なのが当たり前になっていて、「丈夫に産んでくれてありがとう」と言う気持ちを忘れていたなと思いきかせてくれました。
- ・ 「頑張ってるね」ではなく「一緒にがんばろう」と寄り添うことは、いくつになっても大事にしたいなと思いました。家族からの愛情に感謝をして、また次へと伝えることでみんなが幸せになっていくと学べて良かったと思います。
- ・ 感謝の気持ちを言葉で表現することが簡単なようで実は難しい。照れたりするかもしれないけどしっかりと表現できる素敵な人になってほしいなと思いました。
- ・ これからも子供の心の支えになれるように見守っていただけるとなと思います。親から子への「ありがとう」もたくさん伝えていけたらなと思いました。
- ・ 「感謝の心」があるから、また支えてくれる人がいるから、より一層頑張れることだと思います。「親子の絆」を大切に、より向上し合える関係を築き、維持していきたいです。
- ・ 子どもが6年生の時に「授業の中で道徳が一番苦手」と言っていた事にびっくりしていました。相手の気持ちを考えたり、違う意見を受け入れたりするのは苦手だろうなどは感じていましたが…。
- ・ 今回の授業内容や感想を聞いても、はっきりと答えてくれませんでした。通信で内容を把握して、親子でもう一度振り返るきっかけができました。私も子どもが学ぶ道徳について寄り添ってみようと思います。
- ・ 授業を通しての感想を見ながら涙が出ました。子どもなりに親に対して、色々と考えているんだな。と、凄く感動しました。そして、もっともっと子どもとの時間を大切にしようと思いました。

♪ご返信、ありがとうございました♪

お知らせ

今年度の道徳通信は、5月号以降ミッタメール配信としています。「返信欄」の代わりに、ご意見やご感想がございましたらミッタメールのアンケート機能として「返信欄」を設けますのでそちらでご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。